

各位

西日本国際財団
西日本シティ銀行**第7回（平成17年度）「西日本国際財団アジア貢献賞」及び
財団設立20周年記念特別表彰「アジアKids大賞」受賞者決定のお知らせ**

西日本国際財団（理事長 新藤恒男）ならびに西日本シティ銀行（頭取 新藤恒男）は、平成12年に財団設立15周年を記念して「西日本国際財団アジア貢献賞」を創設し、以来毎年、九州・山口地域においてアジアとの国際交流に貢献している団体・個人を顕彰いたしております。

また、今回財団設立20周年記念特別表彰として「アジアKids大賞」を創設し、国際交流事業を通じ、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献している小学校・中学校及びその周辺で活動している地域子ども団体を表彰いたします。

この度、それぞれの賞の受賞者が決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 第7回（平成17年度）「西日本国際財団アジア貢献賞」

(1) 受賞者

受賞者名	活動地域	分野
カンボジア教育支援フロム佐賀 理事長 松尾 由紀子	カンボジア 佐賀	経済発展援助
カンボジア地雷撤去キャンペーン CMC 代表 大谷 賢二	カンボジア・福岡 東京・愛知・大阪	経済発展援助
特定非営利活動法人 じゃっど 理事長 小幡 順子	ラオス 鹿児島	医療・福祉援助

受賞者の詳細は別紙をご参照ください。

(2) 表彰の内容

受賞者には賞状と、副賞として百万円および記念品を贈呈いたします。

(3) 表彰の時期

平成18年3月10日の授賞式にて表彰の予定です。

(4) 推薦状況

九州・山口地域の各県・政令都市の国際部門、国際交流協会等から9月末までに推薦を受けた候補の状況は次の通りです。

県別

福岡県	佐賀県	熊本県	宮崎県	長崎県	大分県	鹿児島県	沖縄県	山口県	合計
4	1	2	1	1	2	1	2	1	15

分野別

人物交流	スポーツ・文化	医療・福祉・経済発展援助	合計
5	2	8	15

2. 創立 20 周年記念特別表彰「アジア Kids 大賞」

(1) 受賞校

受賞校名	県名
太宰府市立太宰府西小学校 校長 段 美穂子	福岡県
宮古島市立下地中学校 校長 川上 哲也	沖縄県
甘木市立馬田小学校 校長 塚本 憲子	福岡県

受賞校の詳細は別紙をご参照ください。

(2) 表彰の内容

受賞校には賞状と、副賞として 50 万円および記念品を贈呈いたします。

(3) 表彰の時期

平成 18 年 3 月 10 日の授賞式にて表彰の予定です。

(4) 推薦状況

九州・山口地域の各県・政令都市の国際部門、国際交流協会、教育委員会等から 9 月末までに推薦を受けた候補の状況は次の通りです。

学校等団体別

小学校	中学校	地域子ども団体	合計
8	7	3	18
(福岡県)	(福岡県・大分県・沖縄県)	(福岡県・宮崎県)	

3. 選考経緯

平成 17 年 7 月～8 月	各機関・団体に推薦を要請
平成 17 年 9 月末	推薦締め切り(アジア貢献賞 15 候補・アジア Kids 大賞 18 候補集まる)
平成 17 年 11 月 17 日	選考委員会(委員長 長友 泰明)にて、それぞれの候補の中から 7 候補ずつを選定
平成 18 年 1 月 23 日	審査委員会(委員長 田中 健藏)にて、それぞれの 7 候補からアジア貢献賞受賞 3 団体、アジア Kids 大賞受賞 3 校を決定

4. 授賞式

- (1) 日時 平成 18 年 3 月 10 日(金)
14:00～16:30 授賞式並びに受賞者活動披露
16:30～18:00 祝賀会
- (2) 場所 ホテル日航福岡 5F「志賀の間」
福岡市博多区博多駅前 2-25 TEL092-482-1111

以上

本件に関するお問い合わせ先

西日本国際財団 事務局 渡辺 TEL092-476-2154

西日本国際財団アジア貢献賞の概要

西日本国際財団は、昭和 60 年 3 月、西日本シティ銀行（旧西日本銀行）の普銀転換、並びに創立 40 周年の記念事業として設立されました。

以来今日まで国際交流を推進することにより、国際相互理解の促進、国際的人材の育成、及び地域との交流を目的として事業を続けて参りました。

平成 12 年 3 月で 15 周年を迎えるにあたり、九州・山口地域において、アジアの発展及びアジアとの国際交流に貢献している団体又は個人を表彰し、国際交流の輪を広げようという趣旨でこの顕彰制度を設けました。

1. 対象

原則として九州・山口地域に居住し、アジアの発展及びアジアとの国際交流に貢献している団体又は個人を対象とします。

2. 基準

- (1) 人物交流・人材育成
- (2) スポーツ・文化
- (3) 医療・福祉・経済発展援助

の範囲の中から 3 団体（個人）程度を表彰します。

但し、研究部門及び営利を目的とする団体（個人）を除きます。

3. 表彰内容

表彰基準に照らし、国際貢献の努力と成果において最も相応しい団体（個人）を選考委員会、審査委員会で選定し、賞状、顕彰金及び記念品を贈呈します。

アジア Kids 大賞の概要

西日本国際財団設立 20 周年記念特別賞として「アジア Kids 大賞」を創設し、国際交流事業を通じ、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献している小・中学校およびその周辺で活動している地域こども団体を表彰します。

1. 対象

原則として九州・山口地域にある、小・中学校およびその周辺で活動している地域こども団体を対象とします。

2. 基準

上記 1. の対象者が行う国際交流事業、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献し、なおかつ、継続性・相互性・自立性・教育性の要件を備えているもの。

3. 表彰内容

表彰基準に照らし、最も相応しい学校・団体を選考委員会、審査委員会で選定し、賞状、副賞賞金および記念品を贈呈します。

第7回（平成17年度）「西日本国際財団アジア貢献賞」受賞者及び活動内容

1. カンボジア教育支援フロム佐賀（設立：1998年）

理事長：松尾 由紀子 氏

活動地域：カンボジア・佐賀

故村井孝さん（元共同通信社）とカンボジア人コン・ボーン氏が内戦により荒廃したカンボジアの子ども達に教育を受けさせる事を目的に始める。「自分たちの手で行うことが大事、相手をよく知り尊重することが平和を築くことにつながる」という主旨のもと、個人レベルで顔の見える「民間外交」を行いたいという会員が集まり設立された。設立後、1999年カンボジア・日本友好学園中等部建設を資金援助し、2000年5月から現在まで日本語教師を派遣している。その後2002年には高等部が建設され、引き続き継続的支援を行っている。2004年には、カンボジア政府フン・セン首相から「Gold Medal Awarded for National Reconstruction」（国家再生に対するゴールドメダル）を授与された。今後、同団体では、大学に進む生徒たちのために奨学金制度を創設し、当地での教育支援活動を継続的に行うことにしている。

2. カンボジア地雷撤去キャンペーン CMC（設立：1998年）

代表：大谷 賢二 氏

活動地域：カンボジア・福岡・東京・愛知・大阪

学生時代から世界平和への活動をしていた代表大谷氏がカンボジアを訪問した際、地雷により手足を失った人や目の見えない人が多いことに衝撃を受け、1998年自らの信念で立ち上げた。対人地雷の非人間性や被害の実態を人々に知らせ、その廃絶と被害者救援のための資金援助や広報活動を継続的に行っている。その行動力は日本全国で大きな支持を得ている。海外ではカンボジアで地雷撤去活動の支援、被害者の救済、地雷撤去後の土地活用支援や教育支援、被害者のメンタルサポート（ラジオ番組「VOICE OF HEART」の制作・放送）等、国内では、講演会や街頭募金活動、チャリティイベント、小・中・高校でカンボジアの地雷問題についての授業等を行っている。これらの継続的な活動は、アジアの平和だけでなく、将来を担う子ども達の育成に大きな影響を与えている。

3. 特定非営利活動法人 ジャっど (設立: 1992年)

理事長: 小幡 順子 氏

活動地域: ラオス、鹿児島

1992年、前会長(帖佐^{ちようさ}理子^{みちこ}理事兼事務局長・医師)の提案「ラオスで子どもに衛生教育を施し、教育を受けた子ども達から他の子ども達や大人達へ知識が広まっていくプロジェクトができないか」を受け、「ジャっど(鹿児島弁で「そうだ」の意味)」の賛成意見が広がり、その気持ちを団体の名前にして活動が始まる。小学校の校舎壁補強工事を最初の援助とし、その後もトイレ・井戸の設置や保健教育セミナーなど物資援助だけでなく教育、特に保健衛生知識の普及に力を入れている。1999年にはビエンチャン市教育委員長から感謝状を授与されるなど、ラオス国文部省から数回感謝状を贈られている。国内では、各地のイベントに参加し途上国の理解を求めるとともに、援助協力に取り組んでいる。また、県内の小中学校で活動内容や途上国の現状等の講演も行っている。

財団設立 20 周年記念特別表彰「アジア Kids 大賞」受賞校及び活動内容

1. 大宰府市立大宰府西小学校 校長 段 美穂子氏

創立：昭和 55 年

児童数：502 名 教職員数：36 名（平成 18 年 1 月現在）

平成元年当時の PTA 会長の橋渡しにより、韓国扶余邑百濟初等学校との交流が始まる。その年 11 月には同小学校と姉妹校を締結、以後平成 17 年までに 21 回交流（隔年おきに相互訪問）。交流内容は、ホームステイ・学習体験・互いの伝統文化の交流他、教員同士の教育活動の在り方等に関する情報交換も行っている。その間、平成 7 年 5 月には中国南京市裴家橋小学校（現在、発展的に統合された青雲巷小学校）とも姉妹校を締結、交流（絵画、書写等児童作品の相互交換）をしている。「国際理解は人間理解、国際交流は文化交流」の理念のもと、このような児童相互の交流や児童作品による交流を継続的に行っている。また、国際相互交流を進めることによって、相手の違いを良さと捉え、積極的に関わりを作ることができる子どもの育成、また、様々な交流会の機会等を体験することで、自己表現やコミュニケーション力、異文化理解といった国際性豊かな子どもの育成も継続的に行っている。国際教育・国際交流を行う小学校の中でも、高い評価を得ている。

2. 沖縄県宮古島市立下地中学校 校長 川上 哲也氏

創立：昭和 23 年

児童数：129 名 教職員数：18 名（平成 18 年 2 月現在）

下地中学校と台湾との交流は、1999 年に下地町教育委員会による国際交流事業の一環で進められ今日に至っている。2005 年までの 7 年間で 93 名の生徒が台湾台中市立漢口國民中學の生徒とのホームステイや体験授業、交流会を経験。また、1999 年より全日本トライアスロン宮古島大会にて漢口國民中學との交流をきっかけに、以後台湾選手との交流会も毎年行っている。このような学校間の継続的な交流の中、1999 年台湾中部大地震の際、下地中学生達が街頭募金活動を行い、その募金と激励の手紙を被害の大きかった東山國民中學へ送った。一方、2004 年台風 14 号で宮古島諸島が被害にあった際、漢口國民中學から義援金が届くなど、国際的な互助精神の気持ちも双方で生まれている。これらの体験を基に 2004 年 12 月に姉妹校を締結をした。年々コミュニケーションの大切さや異国の文化への関心が高まり、国際交流を継続的に行うことによって、参加した生徒だけではなく、関わった周りの人々等にも影響を与えている。

3 . 甘木市立馬田小学校 校長 塚本 憲子氏

創立：明治8年

児童数：286名 教職員数：24名（平成18年2月現在）

平成11年度、中国の留学生と道徳の時間に学んだ5年生の子供たちが、呼びかけ「学校へ行けない中国の山奥の子供たちを学校へ・・・」がきっかけとなり、国際ボランティア活動が始まる。その活動によって、河南省の山奥の小学校で二人の子供が学校へ行けるようになり、その事が新聞やテレビで紹介された際、カンボジアでボランティアをしている地元校区のボランティアの声かけから、カンボジアの小学校との交流が始まる。現在は、毎月募金週間（世界の人が幸せになるようにという願いから「幸福募金」名付けられた募金が7年目を迎える今日まで続けられている。）

を設け、文具集めや募金と学校農園で育てた餅米や野菜の販売で得たお金でブランコや鉄棒などの遊具を贈っている。募金活動の4年目の平成14年度、子供たちの姿に刺激されたPTAも国際ボランティアバザーを開催し、保護者だけではなく多くの地域の方々も一緒になって国際ボランティア活動に協力している。

子供たちは、平和で豊かな日本の良さに気づき、明るく一生懸命に家の仕事を手伝っているカンボジアの子供たちのすばらしさに学びながら心豊かに育っている。

西日本国際財団アジア貢献賞 受賞者一覧

	受賞者・受賞団体	活動地域	活動内容
第 1 回 (平成 11 年度)	谷口 巳三郎	タイ・熊本	タイで農業指導に尽力
	東 文子	鹿児島	28 年間に亘り留学生を支援
	朝鮮通信使縁地連絡協議会 代表 松原 一征	韓国・長崎	日韓交流に貢献
第 2 回 (平成 12 年度)	モンゴルに風力発電機を贈る会 代表 平原 洋和	モンゴル・都城市	廃品利用の風力発電機を開発し寄贈
	アジア女性センター 代表 松崎 百合子	福岡	アジア人女性の支援活動
	札幌歯科医療協力会 理事長 中村 修一	札幌・北九州	札幌での医療活動
第 3 回 (平成 13 年度)	池間 哲郎	アジア・沖縄	アジアの貧困地域についての講演活動
	片野 明子	福岡	草の根国際交流
	大分県大山町農業協同組合 組合長 三苫 卓爾	中国・大分	農業国際交流
第 4 回 (平成 14 年度)	NPO 法人地球市民の会 会長 古賀 武夫	タイ・スリソカ・佐賀	幅広い民間国際交流
	中国同人館 代表 田川 日出夫	中国・鹿児島	緑化支援運動、日中友好交流
	芦北町立佐敷小学校 校長 村山 正勝	カボツア・芦北(熊本)	学校建設支援運動、国際交流
第 5 回 (平成 15 年度)	池田 広志	フィリピン・ミンダナオ島	現地での農業指導・農業開発・環境保全運動
	山岳民族奨学基金プロジェクト 代表 福山 克巳	タイ・佐賀	タイ少数民族山岳民族への支援活動
	玄海人クラブ 代表 兪 華濬	韓国・佐賀・福岡	日韓草の根交流
第 6 回 (平成 16 年度)	郷土の文化と国際交流を考える会 会長 平野 昭光	大分	22 年に亘り留学生の受入支援
	NPO 法人宮崎国際ボランティアセンター 理事長 杉本 サクヨ	インド・宮崎	インドでの教育支援活動
	NPO 法人シャティ山口 代表理事 角 直彦	タイ・山口	タイ少数民族への支援活動